

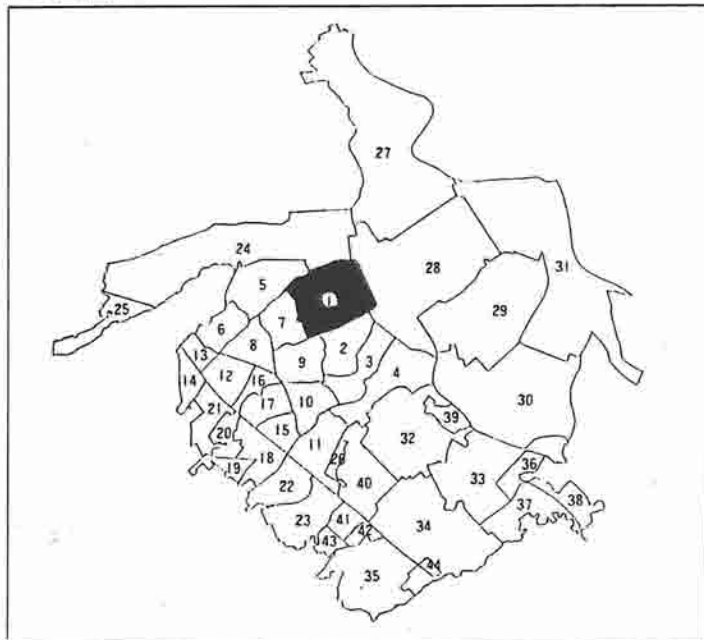
・概況

山室町会は、富士見市の北部に位置し、西側は台地（台地段丘）と一部浸食凹地（谷底平野）で、また東側は新河岸川に面し、水田地帯（氾濫平野）で形成されている。昭和34年以前は家屋も少なく（木造家屋22棟）、低地部は水田として利用されてきた。台地部は、昭和34年以降、水田の一部が盛土され、宅地化が進み、静かなベッドタウンとなっている。水田地帯には、川越・志木線（富士見・川越有料道路）の幹線道路が貫通している。

水害履歴からは、台風に伴う大雨のため低地部（山室公園付近の住宅地）で家屋浸水、水田地帯で水田・畑が冠水する内水災害の発生が予想される。

地震災害は、低地部で木造建物の倒壊が、水田地帯の一部で液状化が予想される。また、昭和30年代後半から段丘崖沿いに開発された住宅地には多くの擁壁があり、ひび割れ、崩落の危険がある。

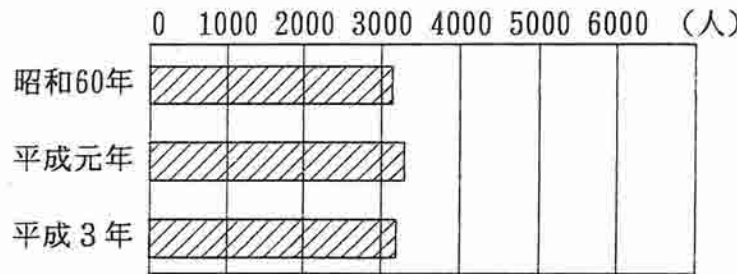
・位置図



1. 基礎指標

・面積	0.573km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,600人
女	1,565人
計	3,165人
・人口密度	5,523.5人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	9人
・世帯数	931世帯

・人口推移

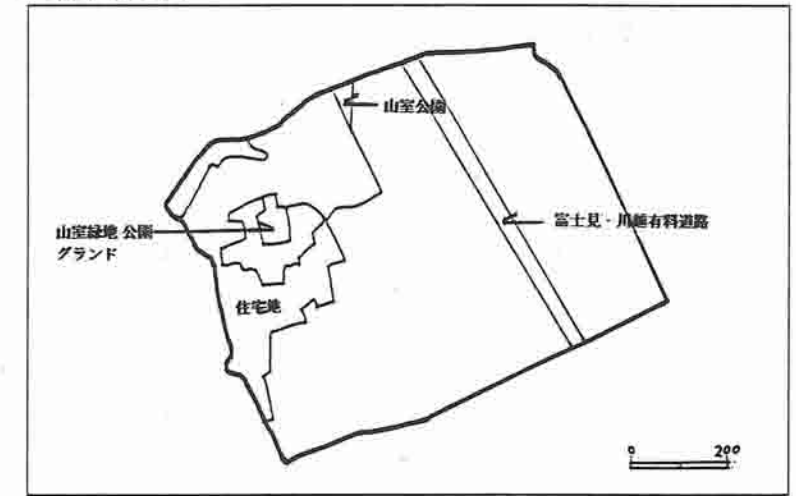


・年令別人口(平成3年)

山室1	2	計	(男)	(才)	(女)	山室1	2	計
0	0	0	0	0	7	2	5	7
1	3	4	4	4	17	5	12	17
2	16	18	18	18	19	6	13	19
5	13	18	18	18	37	9	28	37
4	21	25	25	25	48	15	33	48
13	40	53	53	53	54	16	38	54
27	62	89	89	89	58	13	45	58
41	122	163	163	163	122	25	97	122
60	119	179	179	179	177	61	116	177
39	122	161	161	161	193	53	140	193
22	71	93	93	93	98	26	72	98
12	51	63	63	63	63	13	50	63
15	68	83	83	83	74	16	58	74
43	119	162	162	162	145	36	106	145
50	147	197	197	197	179	57	122	179
37	101	138	138	138	111	27	84	111
33	67	100	100	100	93	19	74	93
6	54	60	60	60	72	14	58	72
410	1196	1606	400	200人	0	413	1154	1576

・商住工混在率住居系	96.0%
店舗系	2.3%
工業系	1.7%

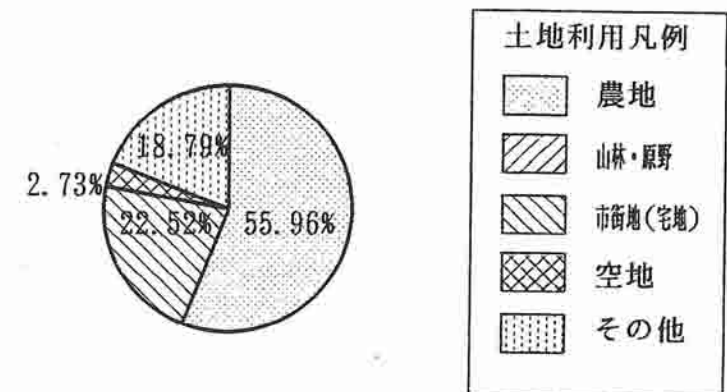
・町会現況図



・用途地域図



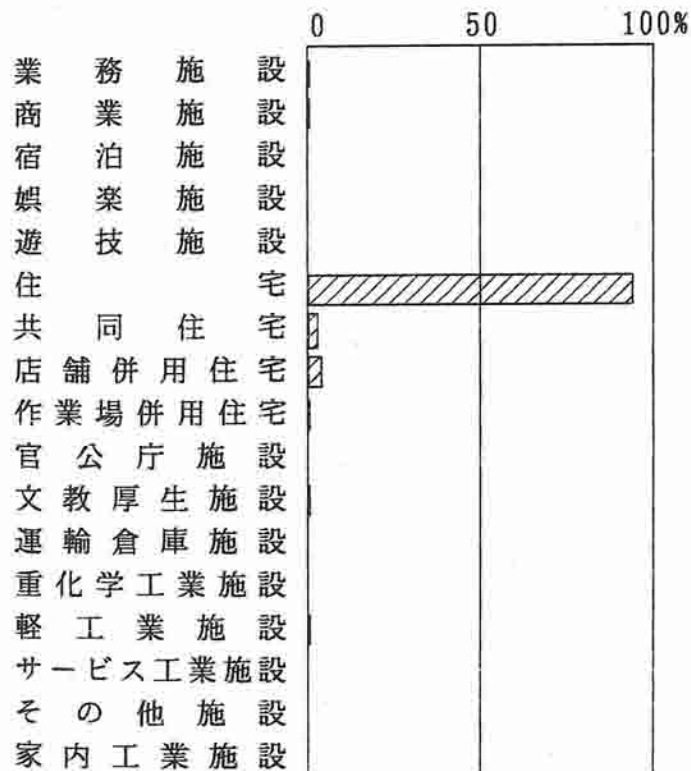
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,091棟	
・木造建物	1,028棟	
・非木造建物	63棟	
・建物面積	39,117.30㎡	
・木造建物	36,306.12㎡	
・非木造建物	2,811.18㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	94.3%	
・木造率	94.2% (1,028棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	22棟	
・同上率	2.1%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	130棟	12.6%
2階以上	898棟	87.4%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	55本	96本/㎢
・幹線道路率	3本	5.2本/㎢
・公共空地面積	4,103.6㎡	
・公共空地率	0.7%	
・1人あたり公共空地	1.3㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 山室公園*	1,103.6㎡	
5. 山室緑地公園	3,000.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部	
・消火栓本数	25本	
・1消火栓あたり世帯数	37.2世帯/本	
・消防水利貯水施設数	3 (3) か所 ()内は容量40トン以上の施設数	
・消防団機械器具置場	0	

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年12月(氾18号)	34棟	1棟	か所
平成3年9月(氾18号)	164棟	31棟	か所
年月()	棟	棟	か所
年月()	棟	棟	か所
年月()	棟	棟	か所
年月()	棟	棟	か所
年月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年) 0件			
・火災出火件数(平成3年 ~ 年) 3件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	1か所	富士見消防署
病院	0か所	
医 院	1か所	鈴木内科医院
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	3か所	山室第1遊水池 山室第2遊水池 山室第3遊水池
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

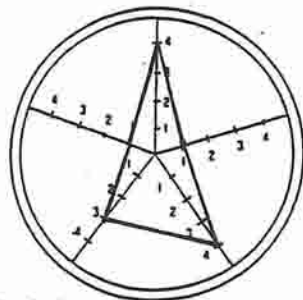
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	4ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	1ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、台地部は洪積層（浸食されて段丘状になったところも含む）で硬く、低地部は谷底平野で軟らかく、水田地帯は氾濫平野で軟弱地盤となっている。台地部で震度5（+）（強震の強い方）、低地部で震度6（-）（烈震の弱い方）、水田地帯では震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	灌漑用水路、砂川堀都市下水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は、山室第1、第2、第3遊水池が設けられている。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件は、低地部と水田地帯で悪いため、木造建物の倒壊の危険性があるので注意を要する。	3. 消防能力	建物棟数と比較して、消火栓数が少ない。山室2丁目地区の住宅地内の道路幅が狭いため、消防車の消防能力が低下する。
4. 出火危険	木造建物密集地で出火の危険性がやや高い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	低地部で不燃領域率は50%～70%と見込まれるため、延焼の恐れがややある。	5. 避難収容力	他町会内に指定されている避難所には収容施設があるが、町会内の指定避難所（山室児童公園）には収容施設が無いので収容力は低い。1人あたりの公共空地は1.3㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	水田地帯は軟弱地盤のため液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防は、住宅地内の下水路へ直接雨水が流入するのを防ぐため、既存遊水池の他に住宅地内に貯留型施設を設置することが望まれる。

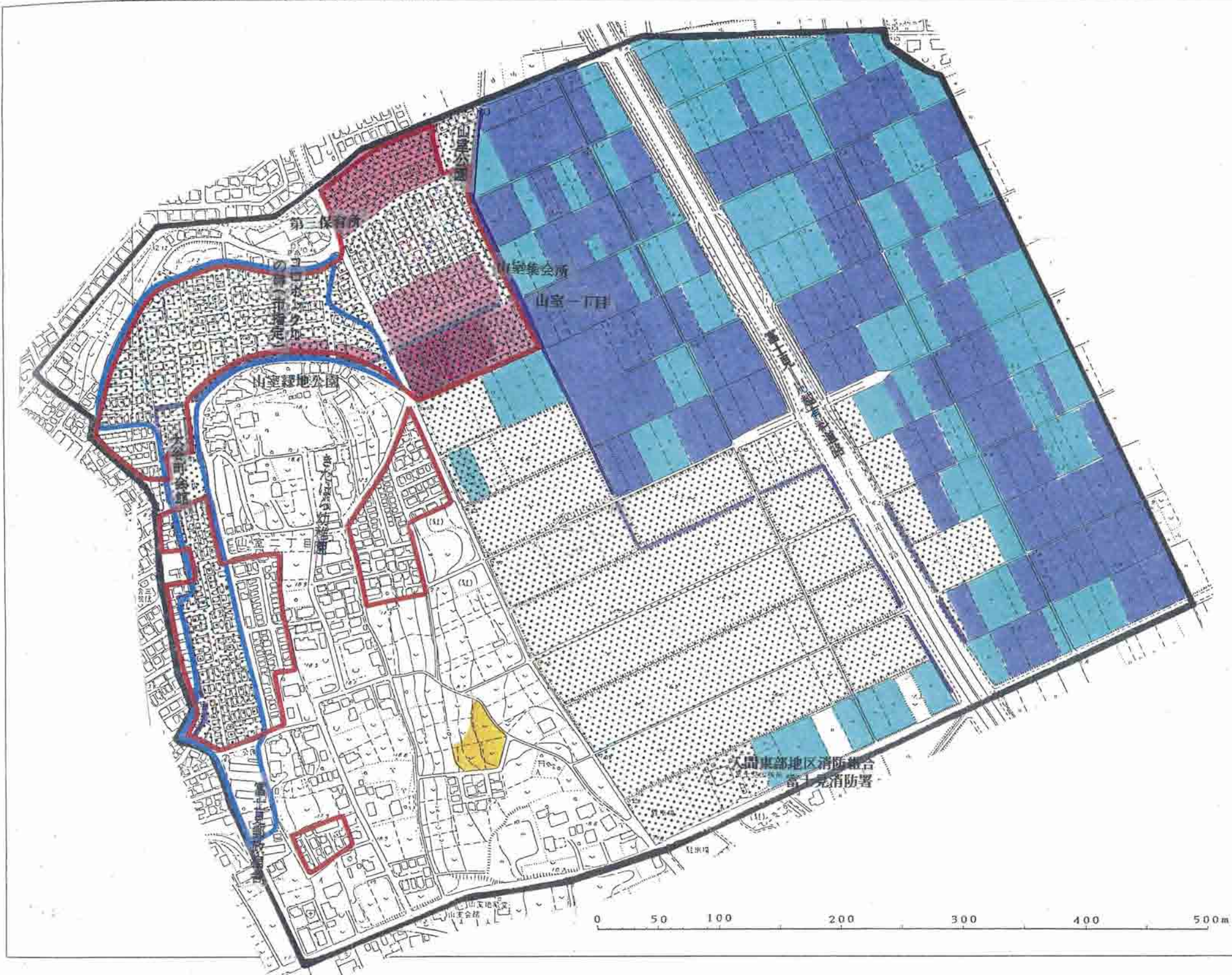
地震火災の危険度がやや高いので消防能力（消火栓の増設、消防車の消火活動）を高める計画を検討することが望ましい。

避難可能な道路は、通路沿いにある自動販売機、ブロック塀の倒壊のため、道路を狭隘化する危険性があるので、これら転倒・倒壊の予防対策の指導が望まれる。また、市道441号線は、土砂流出、冠水により、通行不能となることが多いため、早期の整備が必要である。避難のため砂川堀都市下水路を渡る橋は、損壊・落下を防ぐため定期的な事前保守・点検を行う必要がある。住宅地内の擁壁も同様である。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

台地5（+）強震（強）

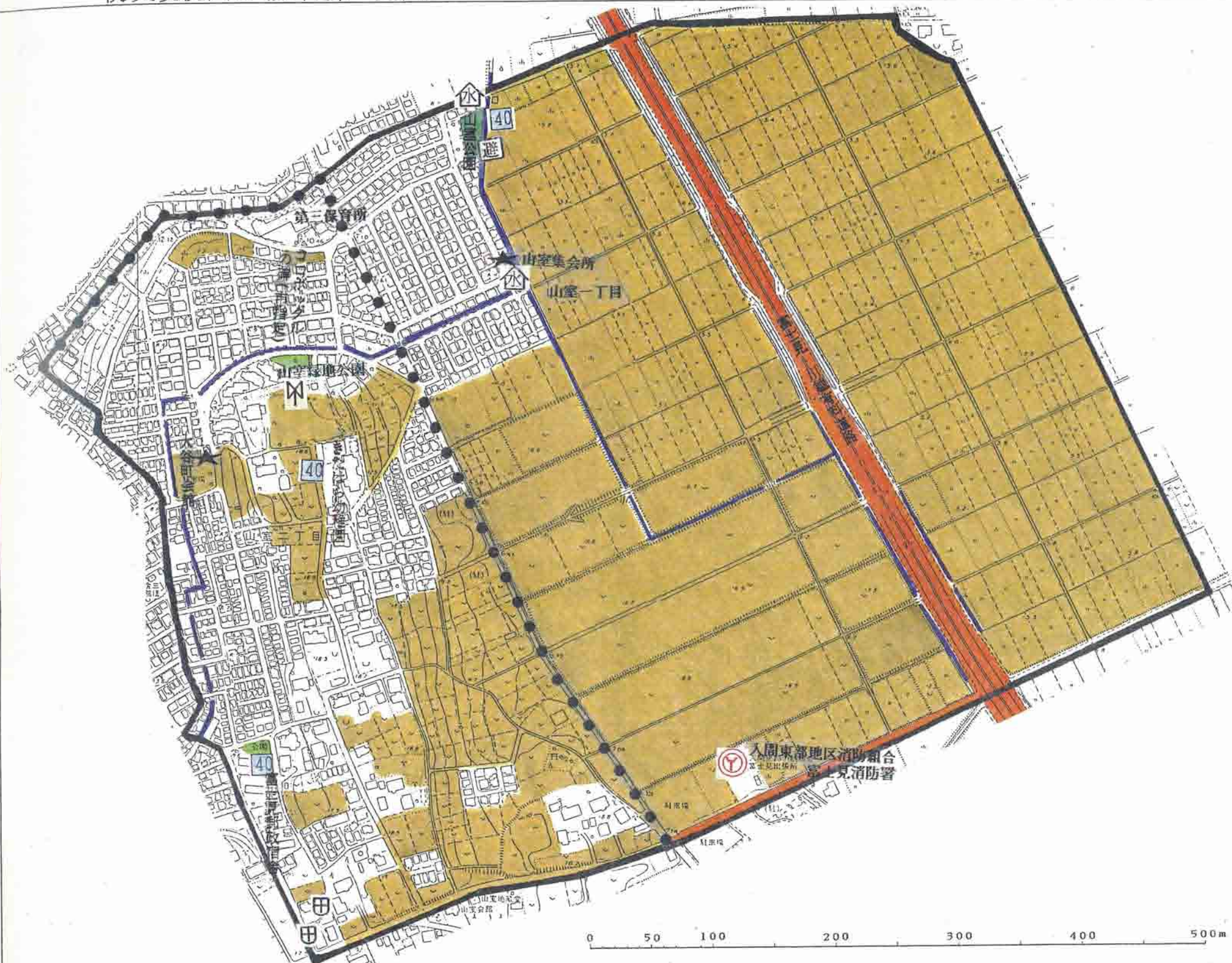
防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)
既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病院
	診療所
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路(計画中)
	学校(小・中・高)
	空地・水田・畑

